

1 事業名

平成27年度教育事業 「テンパークちゃれんじくらぶ」
～ドキドキ わくわく 冬～

2 趣旨（事業の目的）

自然体験をとおして，自然を大切にする心，豊かな感性や思いやりの心を育むとともに，ボランティアの高校生・大学生また参加者同士の交流をとおして，コミュニケーションの力を育む。

3 期日

平成28年1月16日（土）～17日（日）

4 参加者

盛岡市，滝沢市，紫波町，雫石町の小学生，3～6年生（92名）

5 連携・協力

盛岡市教育委員会，滝沢市教育委員会，八幡平市教育委員会，雫石町教育委員会

6 内容

（1）日程

日時			13:00	13:30	13:50	16:30		17:30	18:30	20:00	21:00	21:30
16日 (土)			受付	はじめの会	テンパーク プチリンピック！ ～雪上運動会～	ランチづくり	夕食	スノーマジック ファンタジー ～キャンプ ファイヤー～		入浴	就寝準備	就寝
日時	6:30	7:00	7:20	8:45	9:30	13:00	13:30	13:45	14:00			
17日 (日)	起床	洗面・清掃	つどい	朝食・休憩	退所点検	もちフェス！ ～もちつき大会～	アンケート記入	おわりの会	解散			

（2）指導者

国立岩手山青少年交流の家

企画指導専門職

鎌田 信浩

企画指導専門職

丹 康浩

事業推進係

及川 未希生

事業推進係

高橋 知也

指導補助

法人ボランティア

26名

（3）企画のポイント

体験活動支援セミナーに参加している高校生や大学生とのふれあいや体験活動をとおして，友達づくりや班で協力することの大切さを学びながら，楽しい2日間を過ごせるように生活班に複数名のグループリーダーを配置した。

はじめに，全体でのアイスブレイクを行い参加者の緊張をほぐし，班ごとのコミュニケーションが深まるようにプログラムを構成した。プチリンピックでは雪上でダイナミックに体を動かしたり，もちフェスでは臼と杵を使って，実際にもちをつき，伝統的な雑煮や一般的な味付けから，ちょっと変わったものまで，様々な餅の味覚を楽しんだり，冬を満喫する企画を立てて臨んだ。

(4) 広報のポイント

年度当初から、当施設ホームページに事業日程を掲載してきた。また、盛岡市、滝沢市の教育委員会教育長、盛岡市、滝沢市、八幡平市、雫石町の各小学校と報道機関へ開催要項とチラシを送付した。メインの活動が明確になるよう、チラシの作成を工夫した。

(5) 運営のポイント

体験活動支援セミナーの参加者を各グループ2～3名ずつ、小学生10グループのグループリーダーとして位置づけて、小学生の参加者が不安を抱くことがないようにあたたかく迎え入れるようにした。班が早く仲良くまとまるようにグループリーダーが率先して会話をすることを心掛け、班のコミュニケーションを深めることで、参加者がより楽しく活動ができるように配慮した。職員と法人ボランティアは、グループリーダーや子供たちの様子を観察しながら、活動の支援を行うことで活動が円滑に流れるようし、グループリーダーが子供たちから信頼を得られるようにした。

また、階層型組織キャンプを構成し、本部ミーティング、スタッフミーティング、映像撮影ミーティング、統括リーダーミーティングなど役割を明確にした、質の高い組織運営体制を敷くことで、安全に留意したプログラム展開を実践することができた。(資料を参照)

7 成果とその普及

参加者のアンケートから「来たときは一人ぼっちだったけど、その日の夜はみんなが友達になっていた。」「いろいろな活動をとおして、みんなと協力し、友情を深められたのでよかった。」「班のリーダーがおもしろくて、いい思い出になった。」「グループリーダーと協力し合い、たくさん笑って過ごせた。」などの感想がよせられた。他の学校の人と友達になれたことや、高校生や大学生とのコミュニケーションが楽しい要因であったことが伺える。また、法人ボランティアが企画した活動一つ一つが参加者にとって魅力的なものとなり、活動を楽しみながらグループから全体へと交流の輪が広がっていった。2日間、様々な活動をとおして、本事業の趣旨であるコミュニケーションの力を育む機会を、1泊2日という短い期間ではあるが十分に提供できたものとする。さらに、チラシにメインとなる活動を明記することで、参加者の興味をもち、募集定員を上回る多くの参加者を得ることができた。こうした成果について、広く県内外の施設に普及していきたいと考える。

8 今後の課題

初日は活動がおしてしまうことで、多少窮屈な日程になってしまった部分もあった。反面、2日目は時間的に余裕ができたところで、グループ内での会話や鬼ごっこ、だるまさんが転んだなどの遊びをグループリーダーが中心となって過ごす時間をとることができた。こうした自由時間を活用することで、さらにコミュニケーションの力を育むことができると感じた。今後は個人の部分からグループ、全体へとつながりが広がっていくような時間を設けていきたい。活動をとおしたグループ内でのつながりと、時間的な余裕の中で生まれるかわりのバランスを考慮に入れて事業を展開していくことで、参加者自身のコミュニケーション能力が高まっていくと考える。

また、この事業は、リピーターの多い事業ということで、新規の参加者にも多く参加していただけるよう、今年度は広報の幅を広げた。結果として多くの参加者を得ることができた。今後も日程等を考慮に入れながら、広報についてさらに工夫していきたい。



アイスブレイク



プチリンピック
「雪だるまづくり」



もちフェス！

体験活動支援セミナー 組織図

【各階層の役割】

本部MT…全体の最終判断を行う。

アドバイザーMT…各活動プログラムの運営に際し、状況確認と人員配置等の動線の最終決定をする。

スタッフMT…各活動プログラムの運営に際し、状況確認と人員配置等の動線の決定をする。また、各活動プログラムの補助スタッフとして、主に物品の準備等を行う(自らの担当の時間帯はスタッフに指示を出すリーダーとなる)

生活班MT…主に子供の状況把握に勤める。健康状態や怪我、安全確保について情報を集約する。点呼や様々な相談は迅速に統括チーフに情報を伝達する。

スライドショー撮影MT…写真の撮影及び選定、スライドショーの作成を行う。

生活・活動班の役割 … 班の子供の安全管理及び生活指導を行う。

- ①人数把握をこまめにする
- ②自分自身が模範となり、生活指導を行う(食事、入浴、ベッドメイキング、活動場所の使い方等)
- ③心と身体の安全を確保する
- ④自然の中で、十分楽しませる
- ⑤些細なサインを感じる

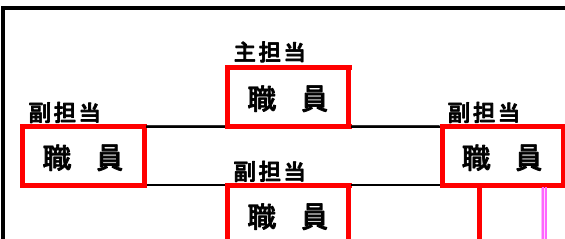
※点呼の報告は統括リーダーに伝える。子どもとの関わり方等の悩みや相談は統括リーダー、統括チーフが対応
その他、キャンプ中に発生する様々な事象について、統括リーダー→統括チーフ→本部MTの順で情報共有を図る

スライドショー作成の手順

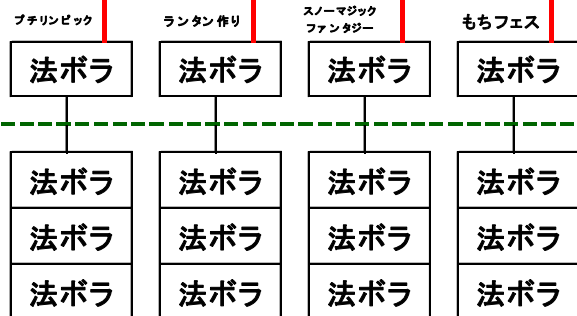
Windows
ムービーメーカーを使用
チームで全体の構成を練る
↓
カメラスタッフが撮影し、
良い写真を選定する。
(各プログラム30枚程度)
↓
編集チーフがPCを使って作業
↓
完成

アドバイザーミーティング

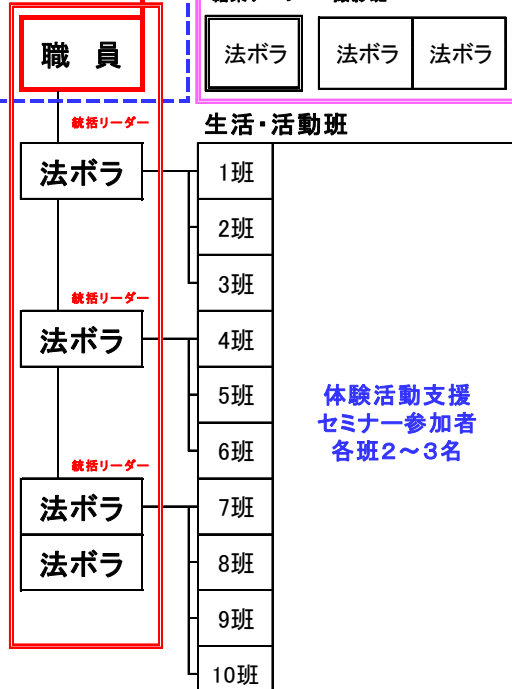
本部ミーティング



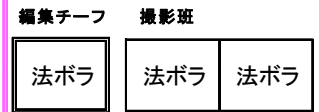
スタッフミーティング



生活班ミーティング



スライドショー撮影ミーティング



生活・活動班

- 1班
- 2班
- 3班
- 4班
- 5班
- 6班
- 7班
- 8班
- 9班
- 10班

体験活動支援
セミナー参加者
各班2～3名